

類義語 — 特色・特徴 —

桑 原文 代

1. はじめに

ソビエト人学生の作文に、「日本のよい特色は…」という表現があったが、この表現をどう説明して添削するか、また、特色・特徴・特長・特質・特性の類義語の用法についても調べてみたら、という示唆が、研究会の席上ある会員からあった。それが今回、このレポートをまとめる契機となった。

まず『大漢和辞典』（大修館 1985）では、「特徴」だけに漢籍からの用例があったが、語義は「特別のお召し」とあって現在の語義とは全く異っており、これらの五語は漢語からきたものではないということがわかった。

また『大日本国語辞典』（小学館 1982）では「特質」は characteristic、「特性」は peculiarity の訳語として『哲学字彙』（井上哲次郎ほか 明治14年）に初出らしいことがわかったが、他の三語にはこうした初出の用例はなかった。

『和英語林集成』（ヘボン 1867）の英和の部で、peculiarity の訳語に「とくしつ」があるが、和英の部には五語のどれも採録されていなかった。

今回は、これらの五語は近代に翻訳語として成立したらしい、というところまで、あとは用例に即してのレポートとしたい。

2. 「特色」「特徴」「特長」「特質」「特性」の用例

さて、86年6・7月の『朝日新聞』『日本経済新聞』、85年10月から86年7月の『NHK婦人百科』、以下の中学校教科書5冊『中学社会地理的分野』『中学社会歴史的分野』（日本書籍）『改訂新しい科学・1分野』『改訂新しい科学・2分野』（東京書籍）『改訂中学国語 1』（教育出版）、他に『原色ワイド図鑑 魚・貝』『原色ワイド図鑑 動物』（学習研究社）『技術の社会学』（加藤秀俊 1983）『忠臣蔵とは何か』（丸谷才一 1984）『失敗の本質』（戸部良一ほか 1984）『日本語講座 巻4』（大修館 1976）などから、上記の五語の用例をできるだけ多く拾ってみた。その結果、以下の通りの用例が得られた。

「特色」	58 例	「特徴」	123 例
「特長」	4 例	「特質」	9 例
「特性」	21 例	その他（特徴的など）	12 例

- (1) 品質や価格の面で、よその製品とは一味違う特色がなければならない。
(『朝日新聞』 86. 6. 5)
- (2) 消費者が似たような商品を選択する場合に、品質や取引条件の特徴を比較できる具体的な情報を提供するのが、望ましい比較広告だとしている。
(『朝日新聞』 86. 6. 6)
- (3) この伝記のなによりの特長は、あてずっぽうの推測をしないで、がっちりとした証拠がためをしている点である。(『朝日新聞』 86. 7. 8 木島 始)
- (4) その商法の「特質」を問うと、自力、始末、実践の順。
(『朝日新聞』 86. 6. 14)
- (5) しかしメーカー側は、「売る際に、ガラスの特性を話すべきだ」と指摘している。(『朝日新聞』 86. 6. 12)
- (6) 三人の特徴的な非行歴を持つ少年を取材する。(『朝日新聞』 86. 7. 14)
用例は「特色」「特徴」の二語にかたより、その他の語は散見する程度だったので、以下、「特色」「特徴」の二語について調べてみる。

3. 『表現類語辞典』の説明

『表現類語辞典』（藤原与一、磯貝英夫、室山敏昭編 東京堂 1985）には、次のような説明がある。

〔特徴 特長 特色 異色 異彩〕

特徴 他と違って、特に目立つ点。また、しるし。〈特徴〉は、他と違って、特に目立つ点を客観的に言うのに用い、人にも人以外のさまざまな物にも、また、外見的なことにも内面的なことにも広く使う。〈特長〉は〈特徴〉の中で、特に実用的な利点の認められる場合に限って用いる。すなわち、〈特徴〉は、よい点も悪い点も含み、特に評価の視点を関わりなく用いられるが、〈特長〉は、評価の視点を伴うわけである。

「この山々の特徴は、山々の起伏の線のへんに虚しい、なだらかに在る」

(太宰治＝富嶽百景)

「なにかもっと特徴になるものを憶えていないか。たとえば、ほくろとか、あざとか、切り傷とか……」(辻邦生＝天草の雅歌)

「この西瓜は肉の黄色いのが特徴だ。」

特長 そのものの特に優れているところ。

「自意識過剰の分裂した心理を近代知識人の特長と推断した横光の筆は制止するところを知らない」(磯貝英夫＝昭和文学作家研究)

「各人の特長を生かすことが大切だ」

特色 他のものと目立って違う点。また、他と比べて優れている点の意にも用いる。＜特色＞は＜特徴＞と＜特長＞の二つの意味を合わせ有している。

「これが実に又た、武蔵野第一の特色だろうと自分はしみじみ感じて居る」

(国木田独步＝武蔵野)

「これ以上日焼けしようのない肌とこの島の人たちの特色をなす形のよい鼻と、ひびわれた唇を持っている」□特質

異色・異彩は略

「特徴」の説明はわかりやすく意を尽しているようだが、「特色」の説明を読むと混乱してしまう。

「特色」には「他と比べて優れている点」という説明があり、「特徴」には、「よい点も悪い点も含み」とあって、「特徴」の方が用途が広いらしい。が、「＜特色＞は＜特徴＞と＜特長＞の二つの意を合わせ有している」という説明を見ると、「特色」は「評価の視点を伴う時も伴わない時も」用いられるということで、「特徴」よりは用途が広いのかもととれる。

この説明では要領を得なかったので用例を見ていくことにする。(「□特質」と注記があったが、「特質」の項はなかった)

4. 「特色」「特徴」の分野による使い分け

「特色」58例、「特徴」123例と、この二語の用例数に倍以上の差がある理由を考えているうちに、全体で見ると半分以上の「特色」の用例が、社会科教科書の中では非常な高率で出てきていることに気がついた。日本書籍の「中学校社会地理的分野」では「特色」21例、「特徴」2例、「同歴史的分野」では「特色」4例、「特徴」1例だった。以下に「地理的分野」からの用例をいくつか挙げてみる。

(7) 気候のちがいによって、各地の植物や動物など、また人々の生活にさまざまな特色が見られる。

(8) 世界の人々は、ひふの色、髪の毛の形や色、からだの特色などによって、いくつかの人種に分けられる。

(9) 韓国と北朝鮮の工業の特色はなにか。

(10) 大きな丸屋根、尖塔、モザイクの壁が特色である。

(11) ふだん見すごしてきたものでも、よく確かめてみると、人々の歴史や地域の特色がわかってくる。

(12) 地域の大まかな特徴をまとめ、調べるテーマや問題を整理してクラス全員や班ごとなどに分担の項目をきめる。

(11)(12)の例では、「特色」「特徴」はともに「地域の」を受け、全く同義に用いられている。他の(7)～(10)の例も、「特色」を「特徴」と置き換えても、不都合な文はないようだ。にもかかわらず、この教科書では「特色」に用例がかたよっている。

このことから、教科・分野による使いわけがあるのではないかと、教科書の語彙調査を参照してみた。結果は下表の通りである。

中学校教科書

(国研報告 87 1986)

	度数	理／上	理／下	理2上	理2下	公民	地理	歴史
特 色	26	—	—	—	—	9	16	1
特 徴	19	1	—	6	7	4	1	—

高等学校教科書

(国研報告 76 1983)

	度数	物理	化学	生物	地学	倫社	政経	日史	世史	地理
特 質	16	—	—	—	—	11	2	—	3	—
特 色	104	—	—	—	—	6	26	35	5	32
特 性	13	1	3	5	2	1	—	1	—	—
特 長	2	1	—	—	—	—	1	—	—	—
特 徴	76	8	3	3	16	29	6	2	3	6

『高等学校教科書の語彙調査(I)』1983 秀英出版

『中学校教科書の語彙調査(I)』1986 秀英出版

上の表からわかるのは、次の二点である。

- ① 理科的分野では「特色」は一切使用されていない。
- ② 高校の地理・日本史・政経、中学校の地理など、「特色」の多用されている分野では、「特徴」はあまり用いられていない。

5. 「特色」「特徴」の用例

では、この教科書での使いわけは、新聞記事などの一般的な表現に、どの程度ひきつがれているだろうか。

①の理科的分野では「特色」を使わないという点は、新聞の科学欄からの「特色」の用例がゼロということから、百パーセントとは断言できなくても、かなり反映されていると言ってよさそう。また、学習研究社『原色ワイド図鑑 魚・貝』でも「特徴」8例、「特色」ゼロ、『同図鑑 動物』でも「特徴」4例、「特色」ゼロだった。

(13) からだ全体についての特ちょうや、見えない部分の特ちょうなどは、ひき出し線をつけないで、すぐそばに説明してあります。(『原色ワイド図鑑 動物』1983)(この図鑑では、「特徴」は「特ちょう」と表記)

この(13)と(8)とは、共に「からだの」を受けていて、外見的に特に目立つ点という意である。分野による使いわけが反映した例になると思う。

②の地理・歴史分野で「特色」が多用されるという点は、用例を採取した新聞記事などからは、特に断定できなかった。(11)(12)の例でも見たように、教科書の中でも、絶対に「特色」でなければならないというわけでもなさそうだ。

新聞などから拾った「特色」の用例を見ると、この分野的なかたよりというよりも、他と比べて長ずる点を述べる、という意での用例が多いことに気がつく。

(14) 政策の幅を広げて支持層を増やしたい半面、ミニ政党の特色を失うのではというジレンマによるものだった。(日本経済新聞 86. 6. 12)

(15) ③カードに従来の磁気テープも取り付け、普通のキャッシュカードとも兼用にした ― などが特色。(朝日新聞 86. 6. 14)

(16) 上野の知名度は全国区なのに、特色はいまひとつ。(朝日新聞 86. 7. 3)
そこで「特色」「特徴」の用例について、以下の三種にわけてみた。

- a. 明らかに長所につながるもの。
 - b. 単に他との差異を述べているもの。
 - c. 明らかに短所につながるもの、又は好ましくない対象の持つ特に目立つ点。
- この分類は多分に主観的になるが、一応の傾向が出ればと思う。

	特 色		特 徴	
a	17 例	59 %	21 例	23 例
b	11 例	38 %	50 例	56 例
c	1 例	3 %	19 例	21 例

(教科書からの用例は除く)

a の用例は「特色」だけでなく「特徴」にも数多くあるが、割合では「特色」の方がかなり高くなっている。「特徴」は、a、c に比べて b の用例が多くなっている。また、c の用例では、「特色」は 1 例だけで、「特徴」19 例とは大きく異っている。

「特色」は c の意では用にくいのではないか、と考えると、下の例はこの仮

定にびったりになる。

(17) しかも小魚とか生の野菜、果物などにくらべると、こういう穀物はかなり長期の保存ができます。そのような大きな特色をそなえていますから、このへんで定着ということにほぼ見通しがついたので。（加藤秀俊『技術の社会学』）

(18) つまり一定のかぎられた時間のあいだに、一定のかぎられた地域で消費されなければならないというのが、食料品の基本的な特徴なのです。（同書）

この本では「特色」6例、「特徴」14例、aの意の用例はそれぞれ4例、6例だが、cの意の用例はそれぞれゼロ、2例となっている。

以下にcの意の用例を挙げる。

(19) また、学校内でのいじめを苦にして死を選ぶ少年少女が相次いだのも特色。（『朝日新聞』86.7.8）

(20) 現代っ子の特徴は、体は大きく早熟傾向で、体力がないと言われ、ひ弱な子供が多い。（『朝日新聞』86.7.7）

(21) シアトルのメダイナ児童サービスセンターのカウンセラー、ジューン・ベルフォードさんは、十代で妊娠する少女に共通することとして、「片親家庭」のほかに次のような特徴を挙げた。「低い自己評価」「学業不振」「無目標」「貧困」（後略）。（『朝日新聞』86.7.20）

(22) 綱吉が名君を気取る時の特徴は賞罰が派手なことである。（丸谷オ一『忠臣蔵とは何か』）

(23) 団体でも約十四万一千八百円で、この団体切符が安くならないのが日中線の特徴だ。（『朝日新聞』86.6.8）

以上のように、欠点を述べる、又は好ましくないものの他との相違点を述べる場合には、ほとんど「特徴」が用いられている。「特色」は(19)の1例しかない。

新聞などの医学記事や、家庭医学の本に「特色」が見当たらないのも、科学的分野という理由と合わせて、好ましい話題ではないという理由からも、「特色」が用いられないのではないだろうか。

(24) 一般に前者（うつ病の精神状態）の方はよく知られているが、後者（うつ病の身体症状）も必発であり、特に近年ふえている仮面うつ病ではこれが前

景に出るのが特徴である。（『朝日新聞』86. 7. 3）

- ㉔ 男性は発症して患者となるが、女性は保因者にはなっても発症はごくまれなのが特徴だ。（『朝日新聞』86. 6. 19）

以上から下の三点が「特色」と「特徴」の相違点となる。

- ① 理科的分野では「特色」は用いられない。これは、『表現類語辞典』の「特徴」の項に「客観的に言う」とあるのに関連があるかもしれない。
- ② 「特色」は長所につながる他との相違点を述べる場合に多用されるらしい。この場合に、「特徴」を用いてもよい。
- ③ 欠点につながることや好ましくないものの持つ目立つ点を述べる時は、「特色」はほとんど用いられない。

「特徴」には制限がないのに対して、「特色」は分野と内容に制限を持つ。このことが、用例数の差に反映していると考えてもよさそうだ。

更に、「特色」「特徴」の使い方には個人的なカタよりもあるようだ。

例えば、阪倉篤義著『日本語の基礎』では、50ページまでに「特色」が11例出てくるのに対して、「特徴」はゼロである。「特色」は主に日本語やその種々相に対して用いられ、客観的に説明する文である。

- ㉕ 日本語の特色の一つとして問題にされる敬語の本質は何か。

- ㉖ 「話しことば」を「書きことば」と比較してみると、次のような、いろいろの特色がある。

言うまでもないが、日本語に関する一般的な記述では「特色」と「特徴」も同じように用いられているので、この例などは、著者の個人的な用語のカタよりと考えてよいのではないだろうか。

6. 修飾・文型・派生語から見た「特色」「特徴」

では、用例の中では、「特色」「特徴」はどのような形容詞やそれに準ずる語をうけているだろうか。

	「特 色」	「特 徴」
大きな	4 例	3 例
一つの	2	2
際だった	0	3
すべての	0	2
さまざまな	1	1
一番の	0	1
大まかな	1	0
特有の	0	1
共通の	0	1
指示語 (1)	8	7
～的(な)(2)	1	7

- (1) こんな、どんな、このような、どのような、その。
 (2) 基本的な、弁別的、山雪（人名）的、言語的など。

「大きな」とか「際だった」とか他との差の大きさを強調する語が目につくが、数は少ない。「特色」「特徴」の語義からも、書き手の判断を示すような形容詞的な語はとらない表現の方が圧倒的に多い。

「特色」「特徴」の用いられている文は、具体的に、何が（主体）、どんな（内容）の「特色」「特徴」を持っているか、を述べていることが多い。この二語の文の中での位置を見ると、次のようになる。

1. （主体）の「特色・特徴」

「特色」 22 例 「特徴」 57 例

- ㉞ この三年半の中曽根政治の特徴の一つは、巧みな野党分断策にあった。

（『朝日新聞』86. 6. 5）

- ㉞ これらの朝鮮資料の特色は、ハングルを用いていることであり、（福島正

道『外から見た日本語』)

2. (内容) (の)が「特色・特徴」

「特色」 8 例 「特徴」 22 例

- (30) 家内のおにぎりは三角でのりで巻くのが特色だが、(『日本経済新聞』

86. 6. 3 三浦哲郎)

- (31) また肉質がかたいため「完熟しても流通に耐えられる」(東京青果)のが特徴。(『日本経済新聞』86. 6. 23)

3. (内容) (という)「特色・特徴」をもつ(下表)など。

「特色」 10 例 「特徴」 18 例

- (32) これと対照的に木綿は非常によく染まるという特色を持っておりますし、
(加藤秀俊『技術の社会学』)

- (33) 世界でも珍しい都市隣接火山という特徴を生かして、逆に鹿児島を売り出
そうという計画もある。(『朝日新聞』86. 7. 7)

	特 色	特 徴
(という)「特色・特徴」を持つ	5 例	8 例
(という)(点に)(ところに)「 」がある	2	8
が「 」となる	2	—
(という)「 」をそなえる	1	—
も「 」とする	—	1
を「 」生かす	—	1

これは下の例のように「大きい」などの語が「特色」「特徴」についている例も含めて数えてある。

- (34) 一方、辻政信は、ソ連軍について、薄ノロと侮ったソ連軍は驚くほど急速に兵器と戦法を改良し、量において、質において、運用において日本軍を凌

駕した、革命軍の大きな特色というべきだろう、と述べている。（戸部良一
ほか『失敗の本質』）

(35) 木綿のもうひとつの特徴は、染めつけが自由であるということです。

（『技術の社会学』）

(36) その上、一煎目よりは二煎目、二煎目よりは三煎目と、さし湯と共に茶味
が次第によくなって行くのも大きな特色といえるでしょう。（『NHK婦人
百科』85. 11月号）

(37) つまり外来文化と自由文化が生活体系の中で併存関係になっているのが際
だった特徴である。（鈴木孝夫 語彙の構造『日本語講座 巻4』）

文の中の位置で「特色」「特徴」に大きな差は見られないが、「特徴」の方が
上記のような説明的な文に用いられる比率がやや高くなっている。

上の三つの文型に納まる率が「特色」69%、「特徴」79%と高いので、これ
らの語を外国人学生が学ぶ時には、語義だけではなく、文型も合わせて提示する
とよいと思う。

さて、「特色」「特徴」を第一次語とする派生語だが、「特色ある」「特徴あ
る」という形で、「他とは一味違う、一般のものよりすぐれた、すすんだ」など
の意で用いられる連体詞のような語がある。

(38) しかし、大学や短大の芸術系、体育系や外国語系の学部・学科への進学状
況が第一回生からきわめて良好なことから「特色ある高校」づくりが実践さ
れたように見受けられる。（『日本経済新聞』86. 7. 7）

(39) 南北アメリカ大陸のうち、北アメリカは、アングロ＝サクソン民族のイギ
リス人が主になって特色ある社会をつくったのでアングロアメリカともよば
れる。（『中学校社会地理的分野』）

(40) 手術とか難産とか、獣医としての平凡な事件に特徴ある人間が巧みにから
むと、平凡さが変質し、ドラマとしての見事な輝きを持ち始める。（『朝日
新聞』86. 7. 20 畑 正憲）

「特色ある」10例、「特徴ある」4例だった。前にも述べたように「特色」と
は長所を述べるという意味があるので、このような用例数になっていると思
う。

「特徴的な」4例、「特徴づける」2例があるが、「特色的な」「特色づける」は1例も見られなかった。実際に使われていないのかどうかは、この用例数では断定しかねるが、筆者の語感では、「特徴的な」「特徴づける」の方が自然に感じられる。

(41) 「海溝」と「活火山列」と「深発地震」、この三つが島弧を特徴づけているわけです。(深尾良夫『地震・プレート・陸と海』)

(42) とにかくむやみに故事を引合に出すのは、『曾我物語』の特徴的な語りであった。(丸谷オー『忠臣蔵とは何か』)

7. おわりに

ソビエト人学生の作文を契機に「特色」「特徴」の二語を調べてみたが、分野的なかたよりなど、思わぬ結果がでて興味深かった。

冒頭の作文添削では、「特色」には、今まで述べてきたように、他に長ずる点という意味が含まれているため、「良い」という形容詞をつけると、「頭痛が痛い」と同様な意味の重複になってしまうから「特色」には「良い」という形容詞は用いてはいけないと言ってよさそうだ。また、分野的、内容的な使い分けがあるので、その作文の内容によっては、「特徴」を用いた方がよいと指導する場合もある。

今後は、今回は用例が少なくて調べられなかった「特質」「特性」「特長」をしらべてみたいと思う。